

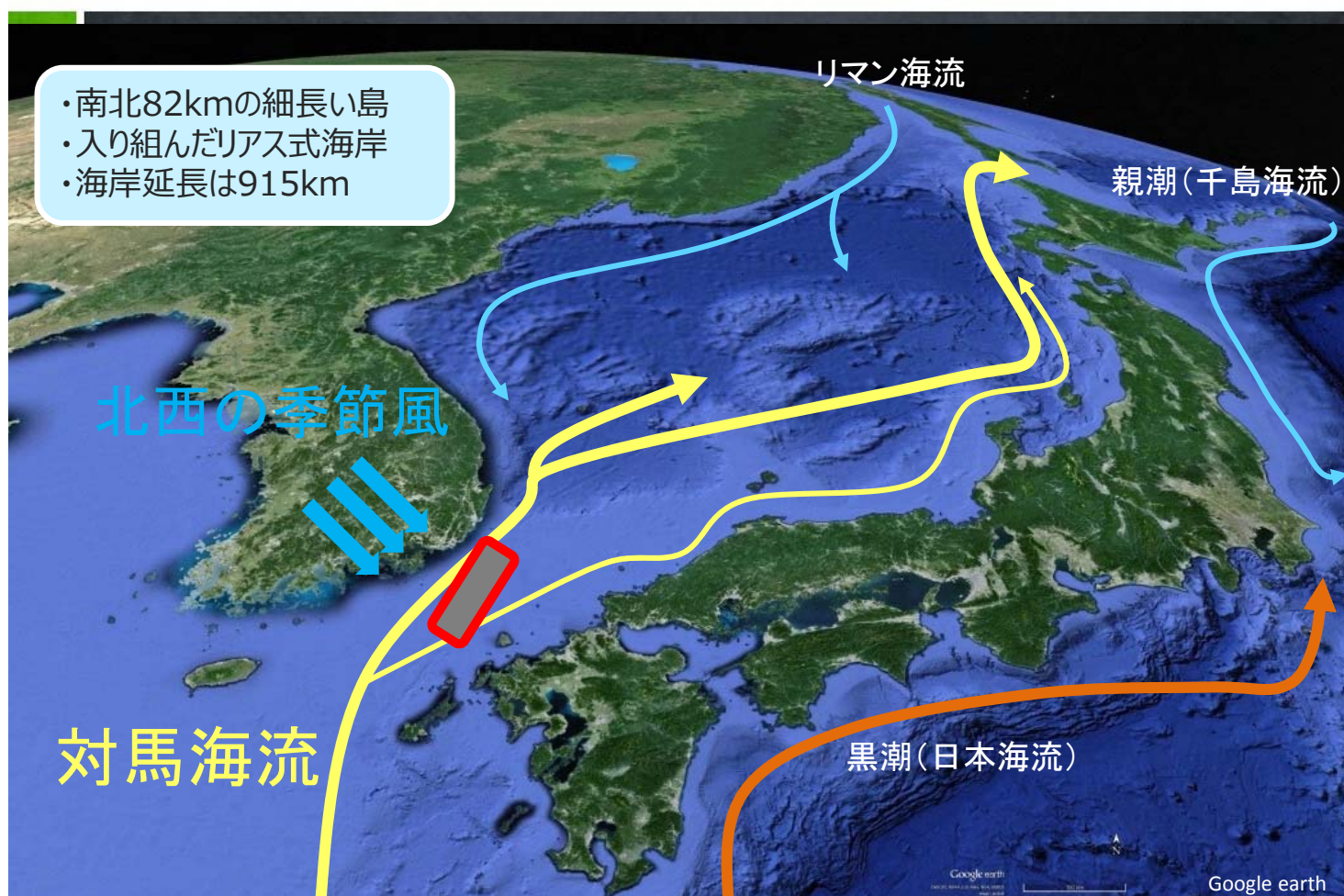


国境離島「対馬」における 海洋プラスチックごみの現状と対策

対馬市しまの力創生課 前田剛

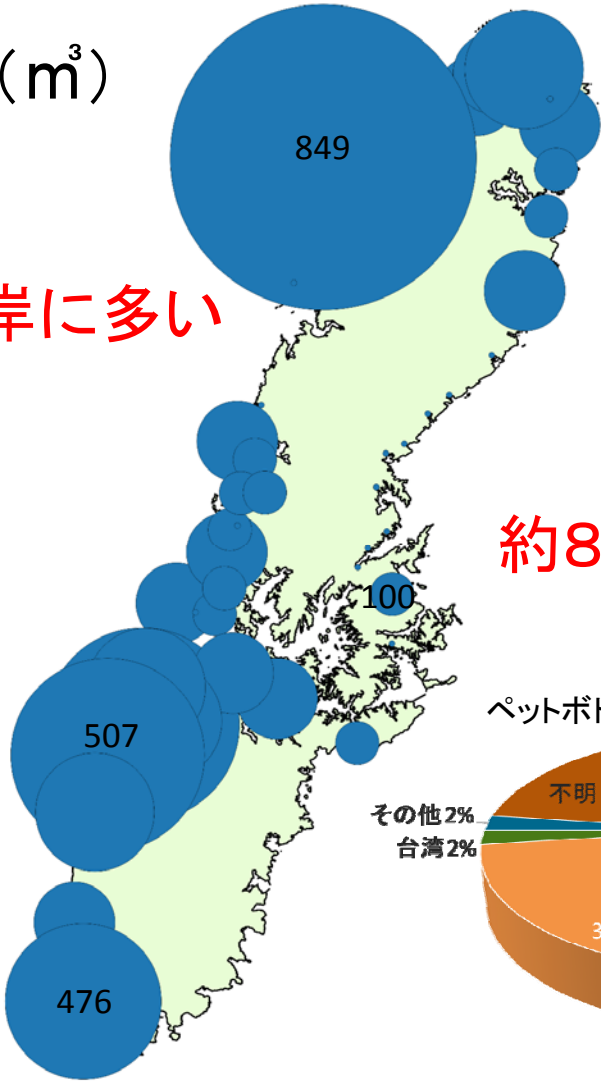
写真: 前田剛

対馬、海ごみの防波堤としての最前線

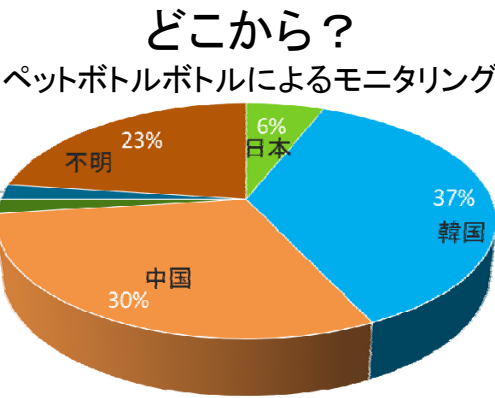


地区別回収量(m³)
2018年度

圧倒的に西海岸に多い



約8割は海外から



データ: 対馬市

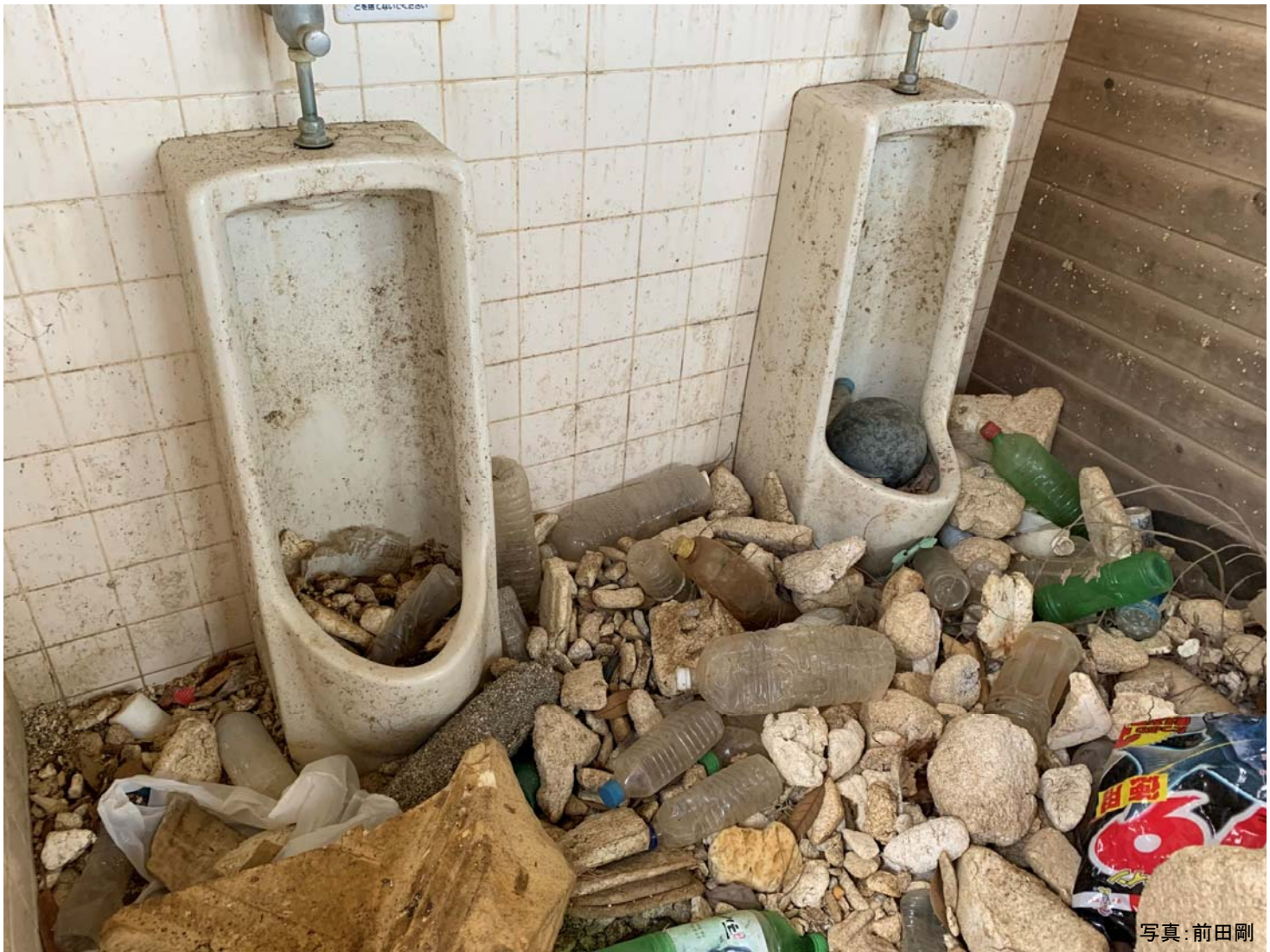


写真: 前田剛



写真:前田剛

劣化・破片化・細分化



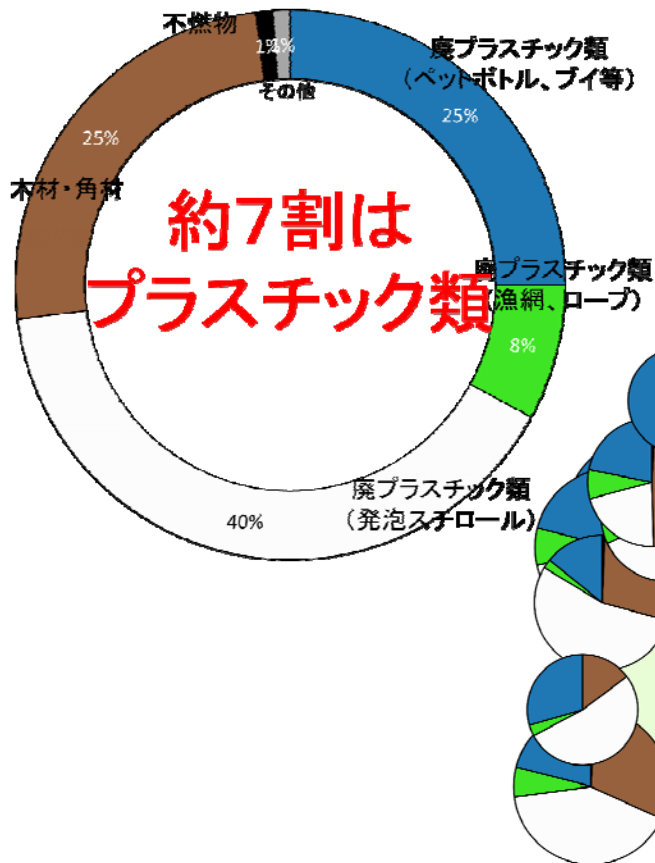
時化等で再流出



対馬で回収を止めてしまうと、
大量のマイクロプラスチックが日本海に流出
対馬の海岸915kmが生成場所になってしまう

写真:前田剛

地区別回収割合 2018年度



凡例

- 回収地区
- 廃プラ類
- 漁網等
- 発泡スチロール
- 木材・角材
- 不燃
- その他可燃
- 電化製品
- 医療系廃棄物

データ: 対馬市

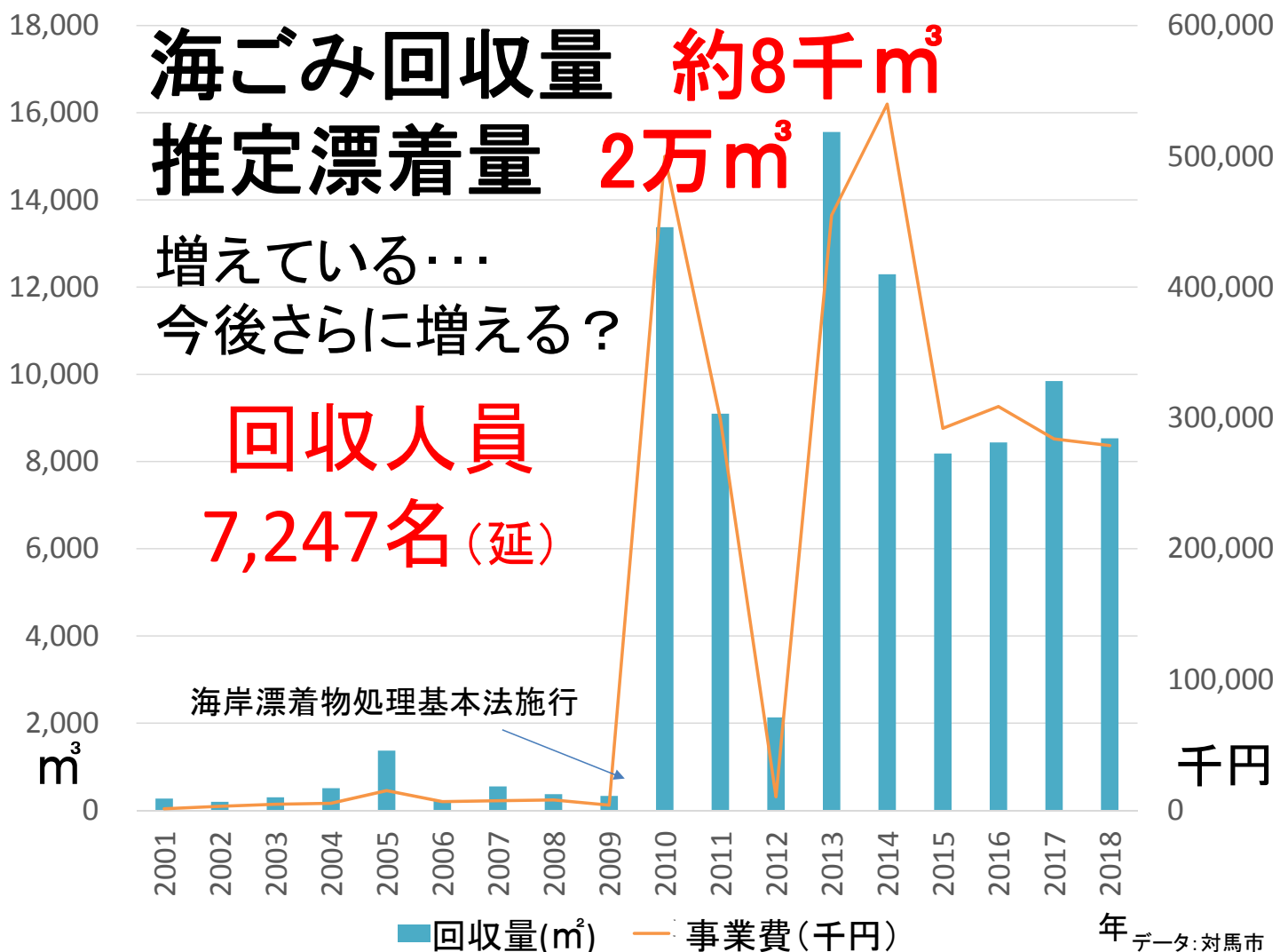


回収事業

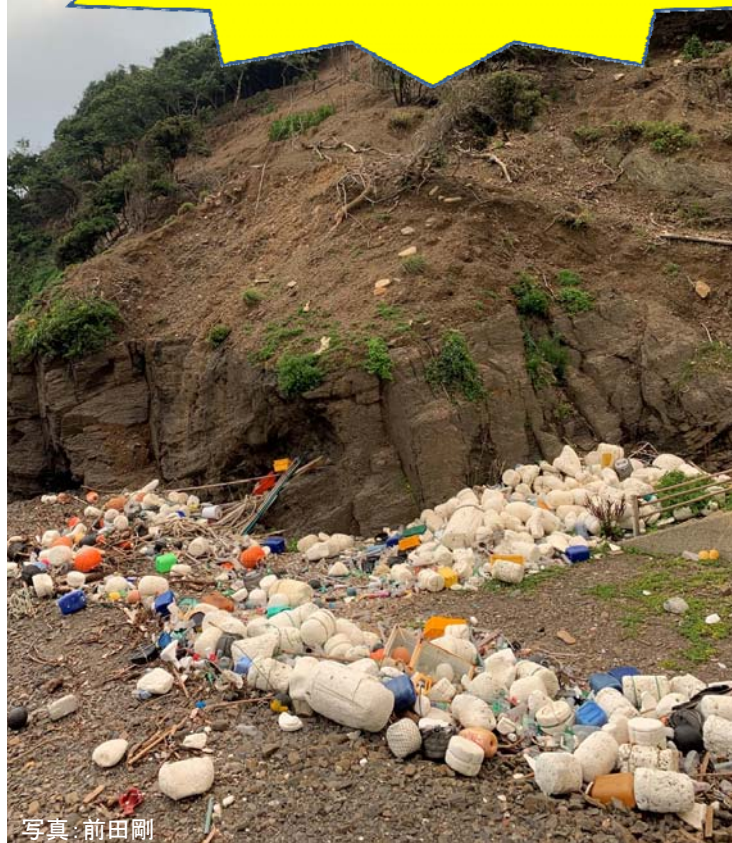
写真: 前田剛

平成13～30年度回収量

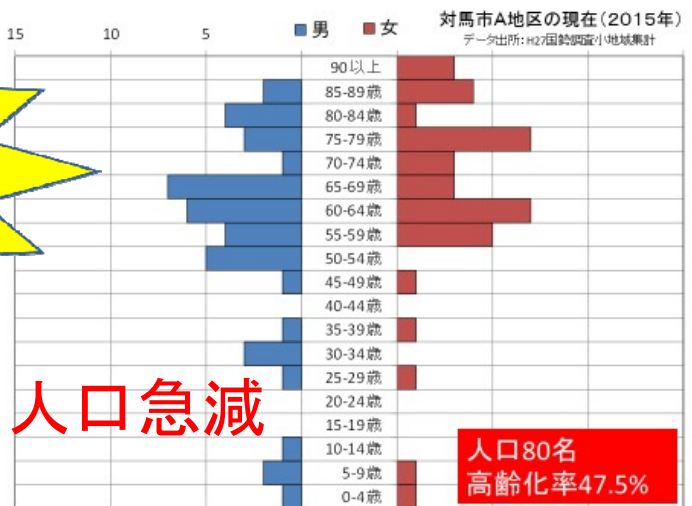
91,589袋 (m³)



将来、ゴミを
回収できるか？



写真：前田剛



美しい海を取り戻すために

写真：前田剛

発泡スチロール



油化装置でスチレン油を生成
市施設で再利用



油化
23トン
(2.8%)

ペットボトル



硬質プラスチック



“ストーリープラスチック”へ
リサイクル業者
(TerraCycle)

全体回収量
819トン

2018年度

最終処分
296トン
(36%)

再選別

回収

回収

40トン
(4.9%)

チップ化
432トン
(52.8%)

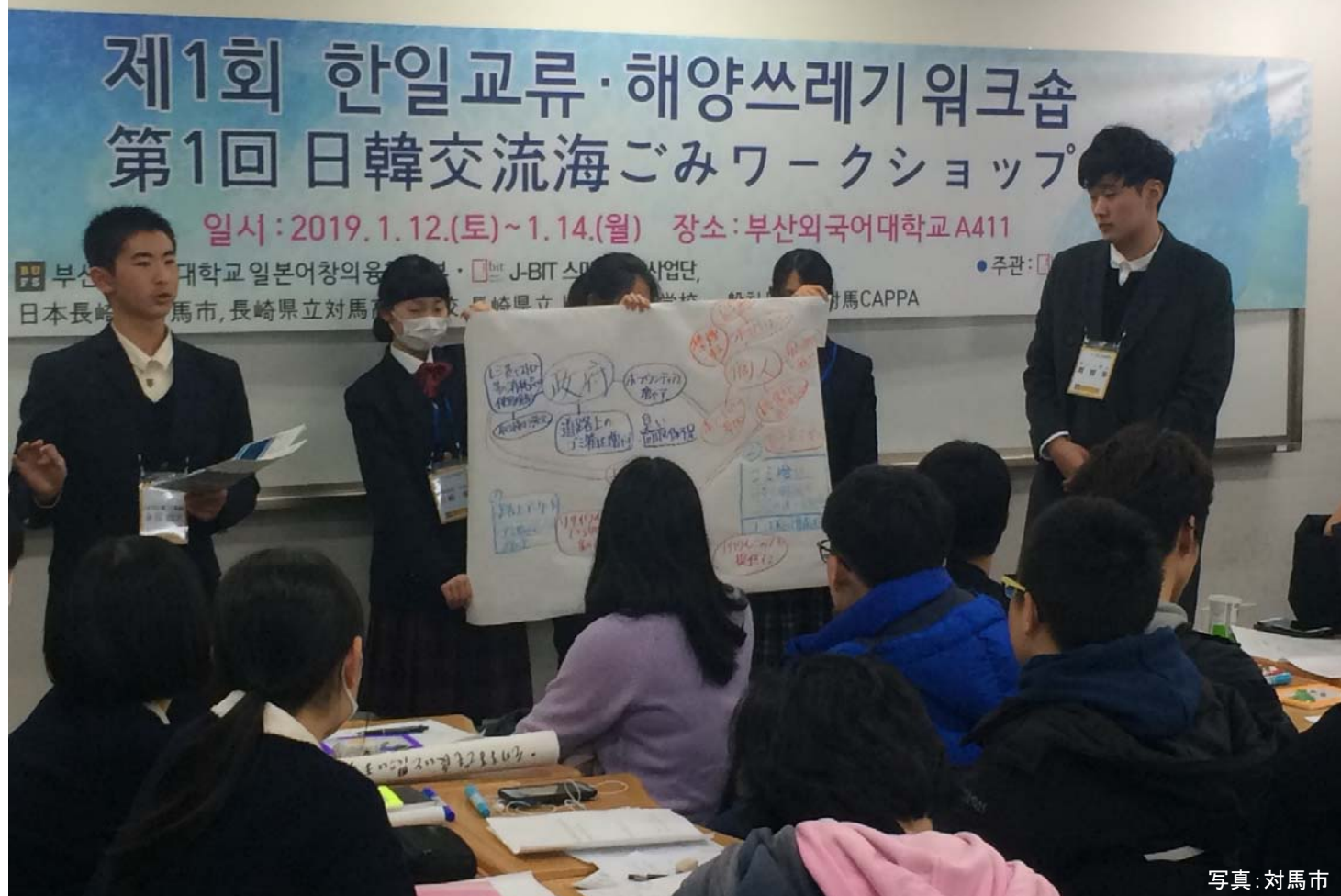
写真: 対馬市

日韓市民ビーチクリーンアップ 2003年～

釜山外国語大学校の学生
地元高校生、一般市民の共同作業



日韓交流海ごみワークショップ in 釜山



対馬CAPPA（中間支援組織）による活動



対馬市島おこし実践塾

大学生・社会人向けの
現場で学ぶSDGs



写真: 対馬市

対馬市学術研究奨励等学生生活動支援

東京コミュニケーション・アート専門学校の学生による
海ごみによる野生動物への影響調査



写真: 対馬市

国際ボランティア学生協会 環境保護活動

拾う心より
捨てない心！



写真：前田剛

漂着物のトランク・ミュージアム®対馬版



写真：一般社団法人対馬CAPPA

学校教育におけるESD 対馬市立厳原北小学校 第6学年 「海岸漂着ごみから環境保全について考えよう」

「対馬→日本→世界」へと広い視野で漂着ごみ問題について考えることができた。

- 海岸調査
- 流木のチップ化施設見学
- トランクミュージアム学習
- 海上保安部出張授業
- 発泡スチロール減容化実験
- 漂着ごみの問題点整理

写真: 対馬市立厳原北小学校



対馬高等学校“ESD 対馬学”



グループワーク

インタビュー

ユネスコスクール
教育

主権者教育

ふるさと教育

ESD
対馬学

主体的・
対話的で
深い学び

キャリア教育

NIE教育

対高未来新聞の作成

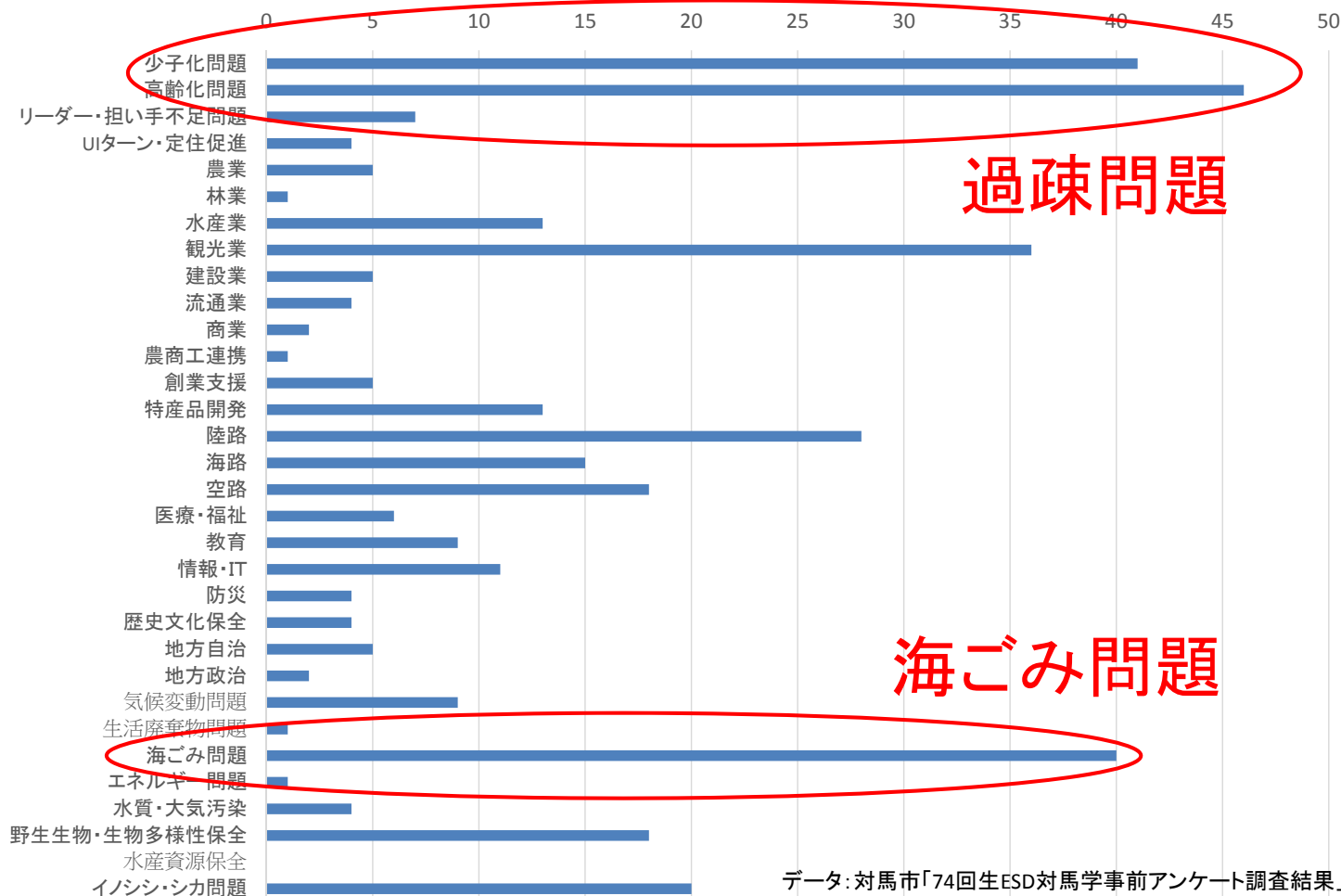
バス巡検

インタビュー

写真: 対馬市

生徒たちの関心傾向(2019)

3A
N=109



対高未来新聞

対馬海流の通り道！

対馬は日本本土と朝鮮半島の間に位置し、対馬海流の通り道となっている。そのため対馬の海岸には多くのごみが打ち上げられる。これらの海ごみは対馬の美しい景色を失うだけでなく、海中の生物や鳥が誤って口にしてしまうことにより死亡してしまうという問題も起こしている。これらの問題は、美しい自然やそこから生まれるおいしい食材を売りにして集客をしている対馬にとって、将来大きなダメージとなってしまう可能性がある。

ごみ処理にもお金がかかる？

一般社団法人対馬CAPPAとは、島内での海ごみの削減に携わっている団体である。理事を務める末永さんによると主な海ごみの種類としては、ペットボトルや漁具、木材が多いそうだ。大半のごみの処理は島内で行えるが、処理しきれないごみは本土に送っているそうで、それにも費用がかかっているという。

木材を使ったイベント

海岸に木材が多く打ち上げられるならそれらを使って何か作るのはできないかと考えた。ペットボトルなどからはなかなか実用的なものが出ないが、木材なら何とか使えそうだ。ペンチにして休憩用として使うこともできるし、箱にすればもの入れにもなる。木材にとっても捨てるとなれば塩抜きをして炎で焼却しなければならず、それには必ず費用が付きまとう。しかしベンチなどにすれば焼却処分するよりも費用がかからず、かつ、ほかの人の役に立つことができる。公共の場に置けばそれを見たら人の海ごみへの関心も高まることだろう。それにより、場所を考えずポイ捨てする人が減り、海でのごみ拾いをする人が増えるかもしれない。

発行 長崎県立対馬高等学校
2年 12 班
長瀬 正和
山口 蒼一朗
栗田 一 健介
渡辺 知春
稲垣 瑞季
古藤

(美しい対馬の海ネットワークのface Bookより抜粋)

(写真で見る国際公害問題より抜粋)

美しい対馬を残すには

海ごみは大きな可能性を秘めている。それを扱うかどうかは私たち次第であり、それによって対馬やほかの地域の運命も変わってくる。私たち一人ひとりが起こす行動はとて小さいものだが、確実に海ごみの解決に携わることができているだろう。いつまでもこの美しい対馬を残し未来につなげていくために、今できることをこの先も続けていくべきだ。

t (トン) 袋
輸送代 8,000 円

ご清聴ありがとうございました。

「今までは海ゴミの問題や、ツシマヤマネコやツシマウラボシシジミ等の絶滅危惧種の存在を聞いても、遠い土地の話だと思っていたが、今ではとても身近に感じ、危機感を抱いている。今から行動し、プラスチックを消費し続けるこの生活を変える意識を持たねばならない」(中島孝平君)

14 海の豊かさを
守ろう



阿部治ゼミ 対馬アクションリサーチ2019

写真: 対馬市

